

子供の薬の誤飲

子供が薬を誤飲し、おう吐や意識障害を起こして病院を受診する事故が増えています。

生後6か月頃になると、身近にある物を手に取り、何でも口に運んでしまうようになります。1歳頃になると、身の回りへの興味や関心が高まり、大人や年上の兄弟姉妹の行動を真似しようとしたりします。2歳頃になると、興味を持った物を手に取るようになります。子供の手が届かない場所に置かれていても、イスなど足場になるものを自分で持ってきて手に取ったりします。出しにくい容器に入れるなど二重、三重の対策をとりましょう。



子供は何にでも興味を持ちます

おじいちゃんやおばあちゃんの薬には、さまざまな種類の薬があり、大量に服用すると重い中毒症状を起こすものがあります。身近な大人が、薬を日頃、口にしているところを見れば、子供がその薬に興味を持ち、同じように飲んでも不思議はありません。子供の手が届く所に薬があれば、興味本位で、大量に口にする可能性は十分にあります。

また、子供向けの薬は飲みやすくなっており、味が気に入れば大量に服用する可能性があります。

子供の手が届く所には薬は保管してはいけません

薬の誤飲を防ぐには、普段から薬の保管にはなるべく鍵のかかる戸棚や引き出しなどを使いましょう。タンスの上など子供の届かない高い場所に置いても、箱を踏み台にして机によじ登り、机の上に置かれていた薬を飲んでしまったという例もあります。子供の成長を踏まえて、保管場所には十分に気をつけ、服用する際は子供の手が届く所に放置せず、速やかに服用しましょう。

